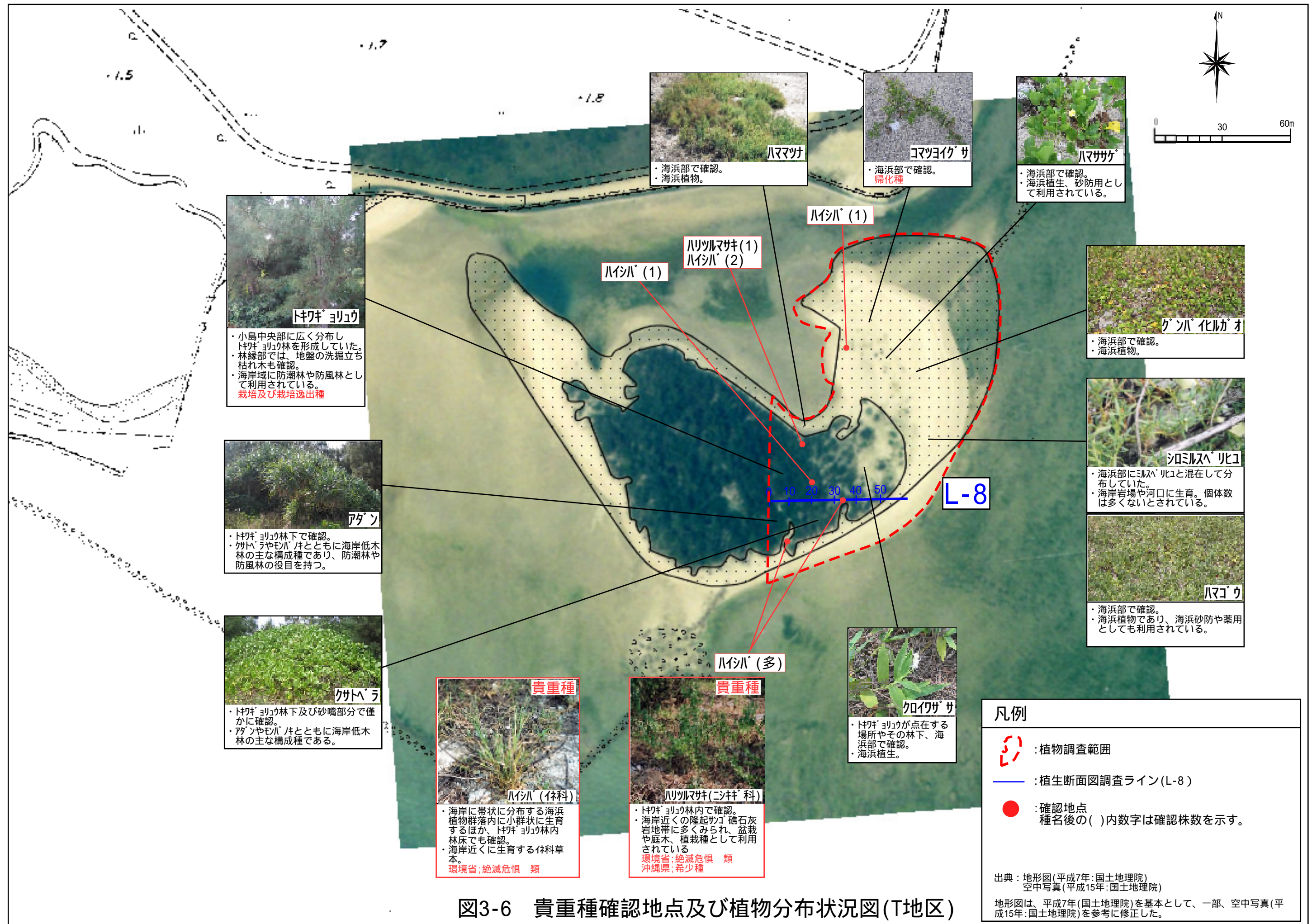


- 図3-4 貴重種確認地点及び植物分布状況図(N地区)



図3-5 貴重種確認地点及び植物分布状況図(S地区)



(2) 植生調査

植生調査

植生調査は、N地区の25地点、S地区の7地点、T地区の9地点で調査を行い、19群落に区分した。その植生区分一覧表を表3-5に示した。群落組成一覧表を表3-6、各地区の群落組成表を表3-7 ~ に示した。

1) N地区

調査範囲は、県総合運動公園敷地境界付近に整備された遊歩道から海側と砂嘴を含む海岸域である。砂嘴の陸地化した地域に外来種のトキワギョリュウ（モクマオウ）群落や海岸植生を代表するアダン群落、クサトベラ群落、グンバイヒルガオ群落などが分布する。また、U字型にカーブした遊歩道前面海岸が砂嘴で閉塞し塩湿地の環境を形成している。そこには海岸湿地に生育がみられるサワスズメノヒエ群落が多く分布するほか、在来種のヨシ群落、ソナレシバ群落、沈水性のカワツルモ群落などがみられた。

2) S地区

調査範囲は、泡瀬二丁目の埋立地と泡瀬通信施設の境界付近で泡瀬第一雨水幹線の開口部に隣接した砂礫が堆積する小規模な区域である。砂礫の堆積する平坦な場所に外来種であるハイキビ群落の旺盛な生育分布がみられ、雨水幹線開口部付近に外来種のパラグラス群落、木陰を提供するトキワギョリュウが点在しているほか、在来種のアダン、クサトベラも僅かに生育する。やや傾斜のある最前部の砂浜に在来種のコウライシバ群落、グンバイヒルガオ群落が小規模であるが生育していた。

3) T地区

調査範囲は、泡瀬通信施設突端の南側に存在する小島（俗称：奥武）にあり、広範囲にトキワギョリュウ（モクマオウ）が生育していた。なお、海岸の植生状況を確認するため海浜植生の分布がみられる東側に調査範囲を設けた。

小島に優占して分布するトキワギョリュウ群落内には小規模であるがアダン群落やクサトベラ群落等の海岸植生もみられた。なお、波打ち際の林縁部に生育するトキワギョリュウは越波による洗堀で根の剥き出しになった立ち枯れ木や倒木を確認した。

小島東側に分布する砂嘴状の砂浜海岸は過去の図面や空中写真でも砂の移動が確認されていることから不安定な状況にあると考えられる。その砂礫地に生育する海浜の植物は、在来種のグンバイヒルガオ群落、ハマササゲ群落、クロイワザサ群落、ハママツナ群落、外来種のコマツヨイグサ群落などの分布がみられ、樹木はクサトベラ、モンパノキのほか、トキワギョリュウの低木が点在していた。

表3-5 群落区分

区分	群落名	N地区	S地区	T地区
塩湿地	a. ヨシ群落			
	b. サワスズメノヒエ群落			
	c. ソナレシバ群落			
	d. ハママツナ群落			
	e. カワツルモ群落			
海岸低木林	f. アダン群落			
	g. クサトベラ群落			
	h. ハマゴウ群落			
海岸草地	i. クロイワザサ群落			
	j. グンバイヒルガオ群落			
	k. コウライシバ群落			
	l. キダチハマグルマ群落			
	m. ハマササゲ群落			
	n. ハイキビ群落			
樹林（栽培及び逸出）	o. トキワギョリュウ(モクマオウ)群落			
低木林（栽培逸出）	p. ギンネム群落			
草地（帰化）	q. パラグラス群落			
	r. コマツヨイグサ群落			
	s. シロノセンダングサ群落			
-	19	14	5	7

塩湿地、海岸低木林・海岸草地の群落名は優占種名で表し在来種である。

樹林、低木林・草地の群落名は優占種名で表し外来種である。

N地区(14群落)、S地区(5群落)、T地区(7群落)の計19群落について各群落毎の概要を以下に示した。

- a. ヨシ群落 「N地区調査地点： 4、14、17、19の4地点」
海岸平野に多く分布するイネ科の多年生草本で、淡水性及び汽水性の湿地に群落を形成する。N地区でも砂嘴と県総合運動公園の遊歩道に囲まれた海岸湿地に小規模であるがパッチ状に群落がみられた。
草本層の第一草本と第二草本の2階層に分化がみられ、2種～4種が確認された。
第一草本層の高さ1.5 m～3.0 m、植被率20%～70%で草本類のヨシが出現した。
第二草本層の高さ0.5 m～0.8 m、植被率100%で1地点(14)に草本類のハイキビが優占したほかはサワズメノヒエが高被度に出現した。また、ヤエヤマヒルギ、メヒルギ、アカバナヒルギ(オヒルギ)の幼樹もわずかであるが地点によって生育が確認された。
- b. サワズメノヒエ群落 「N地区調査地点： 3、5、6、15、18の5地点」
イネ科の多年生草本で河口の感潮域や内湾の最奥部などに成立する群落である。N地区でも海岸湿地に中規模あるいは小規模に点在する群落がみられた。
草本層の1階層で高さ0.5 m、植被率100%、サワズメノヒエのみが出現した。
- c. ソナレシバ群落 「N地区調査地点： 2、11の2地点」
イネ科の多年生草本で海岸などの感潮域に成立する群落である。N地区でも調査地北側の海岸に分布し、満潮時に海水が浸かる場所に生育していた。
草本層の1階層で高さ0.1 m～0.5 m、植被率100%でソナレシバのみが出現した。
- d. ハママツナ群落 「T地区調査地点： 3の1地点」
ソナレシバ同様に海岸などの感潮域に成立する群落で、T地区でも波浪の少ない内湾の海岸に沿って帯状に群落が分布していた。
草本層の1階層で高さ0.2 m、植被率100%でハママツナのみが高い被度で出現した。
- e. カワツルモ群落 「N地区調査地点： 16の1地点」
カワツルモは沈水性の植物で汽水域などに成立する群落である。T地区では砂嘴と県総合運動公園の遊歩道間の海岸湿地で中小規模の分布がみられた。
草本層の1階層で高さ0.1 m程度(水面下)、植被率100%でカワツルモのみが高い被度で出現した。

- f. アダン群落 「N地区調査地点： 24の1地点」
「T地区調査地点： 9の1地点」
主に海岸の安定した砂地に群落を形成し海岸線に分布する。
N地区は、砂嘴東側の海岸にわずかであるが小規模の群落が確認された。低木層と草本層の2階層に分化し、3種が出現した。
低木層の高さ5 m、植被率100%で、アダンのみが高被度に出現した。
草本層の高さ1.5 m、植被率1%と低く、アダン、クサトベラがわずかにみられた。
T地区は、小島のトキワギョリュウ(モクマオウ)林内に分布がみられ、4種が確認された。亜高木層、低木層の2階層で草本層が欠落している。
亜高木層の高さ6 m、植被率20%で木本類のトキワギョリュウ(モクマオウ)、オオハマボウが出現した。
低木層の高さ3 m、植被率100%で木本類のアダンが高被度に出現するほか、クサトベラがわずかに生育した。
- g. クサトベラ群落 「N地区調査地点： 8の1地点」
「S地区調査地点： 2の1地点」
主に海岸の安定した砂地や岩礁上に群落を形成し海岸線に分布する。
N地区は、砂嘴の海岸に小規模の分布がみられた。低木層と草本層の2階層に分化し、3種が出現した。
低木層の高さ3 m、植被率100%で木本類のクサトベラのみが高被度に出現した。
草本層の高さ1.3 m、植被率10%と低く、クサトベラの稚樹のほかアダン、つる性植物のグンバイヒルガオがわずかに生育していた。
S地区は、砂浜の安定した場所に小規模であるがわずかに分布がみられ、低木層と草本層の2階層に分化し、3種が出現した。
低木層の高さ2 m、植被率90%でクサトベラのみが高被度に出現した。
草本層の高さ0.5 m、植被率1%程度と低く、ハイキビ、ツルナがわずかに生育していた。
- h. ハマゴウ群落 「N地区調査地点： 12、20の2地点」
主に海岸の砂浜に群落を形成している。N地区にも小規模であるが分布しており、草本層の1階層で2～3種が出現した。
草本層の高さ0.2～0.3 m、植被率90～95%でハマゴウが高被度に優占するほかグンバイヒルガオなどが生育していた。
- i. クロイワザサ群落 「T地区調査地点： 1の1地点」
主に海岸の砂浜に群落を形成している。T地区のトキワギョリュウ(モクマオウ)が疎らに生育する明るい林縁内や海岸の一部に分布していた。
草本層の1階層で高さ0.1 m、植被率70%でクロイワザサが高被度に出現した。

ほか、わずかにコマツヨイグサが生育していた。

- j. グンバイヒルガオ群落 「N地区調査地点： 1、10、22の3地点」
「S地区調査地点： 4の1地点」
「T地区調査地点： 2の1地点」

主に海岸のやや不安定な砂地に群落を形成し分布する。N地区、S地区、T地区の砂浜に分布がみられ、1～5種が出現した。

N地区は、砂嘴東側の海岸と北側の砂浜に帯状の分布がみられた。草本層の1階層のみで高さ0.2m、植被率85～95%でつる性植物のグンバイヒルガオが高被度に優占するほか草本類のソナレシバ、コマツヨイグサなどがわずかに生育していた。

S地区の海岸は、波浪の影響を強く受けており疎らで小規模であるが群落として調査を行った。

草本層の1階層で高さ0.1m、植被率30%と低くグンバイヒルガオのみが出現した。

T地区は、3地区のうち最も広い砂浜を有しており、中規模の群落分布がみられたが、風波の影響で疎らに生育し被度は低い。

草本層の1階層で高さ0.2m、植被率60%でグンバイヒルガオが優占するほかコマツヨイグサ、クロイワザサがわずかに生育していた。

- k. コウライシバ群落 「S地区調査地点： 3、5の2地点」

海岸のやや安定した砂浜や岩礁上に生育するイネ科の多年生草本である。S地区ではわずかであるが分布を確認した。

草本層の1階層のみで高さ0.05～0.3m、植被率80～90%でコウライシバが高被度に分布するほか、わずかにハイキビ、グンバイヒルガオ、ハマゴウが生育していた。

- l. キダチハマグルマ群落 「N地区調査地点： 13の1地点」

海岸の砂地や岩場などにみられ、N地区でも遊歩道の石積み護岸下部の砂浜にわずかであるが分布がみられた。

草本層の1階層で高さ1.5m、植被率90%で大型のつる性多年生草本のキダチハマグルマが優占するほか、木本類のクロヨナ、ハマゴウ、草本類のシロノセンダングサ、コマツヨイグサ、ハマボッサがわずかであるが生育していた。

- m. ハマササゲ群落 「T地区調査地点： 65の1地点」

海岸の砂地に多くみられるつる性の多年生草本でT地区では砂浜の中央部で分布がみられた。草本層の1階層で高さ0.2m、植被率60%でハマササゲが優占するほか木本類のクサトベラ、草本類のコマツヨイグサ、ハマボッサ、つる性植物のグンバイヒルガオがわずかに生育していた。

- n. ハイキビ群落 「N地区調査地点： 9の11地点」
「S地区調査地点： 1、7の11地点」

海岸近くの湿潤な環境から山裾の原野まで生育するイネ科の多年生草本である。N地区では、湿地北側の岸辺に分布がみられ、草本層の1階層で高さ0.8m、植被率100%で草本類のハイキビのみが出現した。

S地区では、ハイキビ群落が最も広い面積を占めており、草本層の高さ0.6m、植被率90～95%で草本類のハイキビが高被度に出現するほかハイシロノセンダングサ、つる性植物のノアサガオが生育していた。また、7にみられた低木層は高さ1.5m、植被率20%で木本類のギンネム、草本類のセイバンモロコシ、つる性植物のノアサガオが出現した。

- o. トキワギョリュウ(モクマオウ)群落 「N地区調査地点： 25の1地点」
「T地区調査地点： 4、7、8の3地点」

砂防・防風などの利用目的で導入された植物で、N地区の砂嘴とT地区の小島に分布がみられた。

N地区は、砂嘴部に広く分布し、高木林で高木層、低木層、草本層の3階層に分化がみられ、亜高木層が欠落する。

高木層の高さ9m、植被率70%でトキワギョリュウ(モクマオウ)のみが出現した。

低木層の高さ1.5m、植被率15%で木本類のクサトベラ、ヤマグワ、オオバギ、草本類のススキが生育していた。

草本層の高さ0.5m、植被率10%で被度が低く、木本類のアダン、ハリツルマサキ、アカギ、トベラ、フクギ、ヤマグワ、ランタナ、草本類のシロノセンダングサ、ハイシロノセンダングサ、ハイキビ、ススキ、ハマボッサ、シマアザミ、シマツユクサ、糸状の寄生植物のアメリカネナシカズラがわずかに生育していた。

T地区は、亜高木林が1地点、低木林が2地点で調査を行った。

亜高木層の高さ8m、植被率50%でトキワギョリュウ(モクマオウ)のみが出現した。

低木層の高さ1～5m、植被率10%でトキワギョリュウ(モクマオウ)が優占し、小島内部の地盤が安定した地点で木本類のクサトベラ、ヤマグワ、草本類のハイシロノセンダングサ、ススキが生育していた。

草本層の高さ0.2～0.5m、植被率10～70%で草本類のコマツヨイグサ、クロイワザサ、ハマボッサ、ハイシロノセンダングサ、アキメヒシバ、ハマダイゲキ、つる性植物のグンバイヒルガオ、ハマササゲ、スナヅルなどが出現した。

- p. ギンネム群落 「N地区調査地点： 21の1地点」

緑肥植物として導入された種であるが野生化し各地に分布がみられる。砂嘴の基部で運動公園の遊歩道護岸の下部付近にわずかに分布がみられた。低木層と草本層の2階層に分化がみられ、低木層の高さ3m、植被率90%で木本類のギンネムが高被度に出現するほかクサトベラ、草本類のススキ、シロノセンダングサが

生育していた。

草本層の高さ 1 m、植被率 5 %で草本類のシロノセンダングサ、木本類のハリツルマサキが生育していた。

q. パラグラス群落 「S地区調査地点： 6の1地点」

牧草として導入されたが河川や湿地などに野生化している。S地区の西側の比屋根第一雨水幹線開口部付近で分布がみられた。

低木層と草本層の2階層に分化し、低木層の高さ 1.6 m、植被率 10 %程度で木本類のギンネムがわずかに出現した。

草本層の高さ 0.8 m、植被率 90 %で草本類のパラグラスが高被度に出現したほか木本類のギンネム、草本類のハイシロノセンダングサ、糸状の寄生植物であるアメリカネナシカズラが生育していた。

r. コマツヨイグサ群落 「N地区調査地点： 7の1地点」

「T地区調査地点： 5の1地点」

海岸の砂浜に成立する群落で、N地区では砂嘴に生育するトキワギョリュウ(モクマオウ)が途切れた場所に分布がみられた。

草本層の1階層のみで高さ 0.3 m、植被率 60 %で草本類のコマツヨイグサが優占し生育するほか、シロノセンダングサ、マメゲンバイナズナ、ホウキギクがみられた。

T地区では、風波の影響を強く受ける不安定な砂浜の北側に分布がみられた。

草本層の1階層で高さ 0.3 m、植被率 30 %でコマツヨイグサのみが疎らに出現した。

s. シロノセンダングサ群落 「N地区調査地点： 23の1地点」

海岸から山手までいたる所に生育がみられ、空き地や路傍に侵入し繁茂する帰化植物である。草本層の1階層で高さ 1.5 m、植被率 90 %で草本類のシロノセンダングサが高被度に出現するほかコマツヨイグサ、ススキ、シマアザミ、糸状の寄生植物であるアメリカネナシカズラが生育していた。